

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2017-7-15

# APM news 173

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)

第37回美術館大学

「秋山孝の神秘3『パラダイム』～「考える枠組」と「表現する枠組」～」

5月13日(土)pm3:00～pm4:30/受講者:71名/講師:秋山孝/進行:たかだみつみ



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8  
TEL 0258-39-1233



秋山孝の創作の秘密を探るシリーズ「秋山孝の神秘」は今年で3回目となる。今回のテーマは「パラダイム (paradigm)」だ。ここでは、「パラダイム」とは、「物の見方における支配的な認識の枠組」のことを意味し、秋山はこの「枠組」が重要であると考えている。今回の展示タイトルにもサブタイトルがついた。『「考える枠組」と「表現する枠組」』だ。美術館大学では、5月13日(土)と7月8日(土)の2回に分けてそれぞれの「枠組」について秋山が語った。

## 【考えるための枠組】

世界は多くの「枠組」の上に成り立っている。その基本的なものの1つに図形がある。「正多角形」や「正多面体」もそれぞれに決まった「枠組」を持つ。正多角体は、全ての辺の長さが等しく、全ての内角の大きさが等しい多角形のことを指す。そこには正円を接して並べることによって形成されている形が見えてくる。正多面体は、全ての面が合同な正多角形からなり、各頂点に集まる辺の数が全て等しい形をいう。紀元前3世紀にユークリッドが正多面体が5種類しか存在しないことを証明した。その「枠組」から、プラトンはものの根源的な形は正多面体であることを提唱した。

このように「枠組」の連鎖で物事の思考を発展させていくのだ。他にも私たちの身の回りに溢れる「枠組」の例として「黄金比」と「白銀比」、「比率」を取り上げた。

さらにスポーツを例に挙げて秋山は説明する。スポーツも種類ごとに「枠組」を持つ。それはルールはもちろんのこと、競技をする場(サッカーではフィールド、ボクシングではリング)にも細部にまで決まりが定められている。それらの共通認識＝「枠組」の中で戦いが繰り広げられることで、私たちは熱狂し、楽しむことができるのだ。中でも日本の国技である相撲の「枠組」は魅力的だと秋山は熱く語る。相撲の枠組には日本独自の知的な考え方、心がある。故に「神聖」なのだ。全てのスポーツには「枠組」が存在するが、その「枠組」を壊してしまったものがプロレスである。スポーツとしての「枠組」は壊してしまったが、同時にプロレス独自の「枠組」を確立した。そこにはスポーツとは別の魅力が存在し、人々はエンターテインメントとしてそれを楽しみ熱狂する。

今回挙げた例はごく僅かである。この僅かな例の中でも「枠組」の中であればきちんとした答えが導き出せるということを理解することが大切であると秋山は言う。物事は、「枠組」が限られていれば限られているほど魅力的な答えが導き出せる。それは人生にも通ずる。現代は「君の人生は自由だ。何でも好きなことをしなさい。」という環境が良いと捉えられがちである。しかし、昔のように家業を継ぐのが当たり前で、生まれた時点で進む道が決まっているという状況の方が優れた人材を育て、素晴らしいものを生み出すと考える。与えられた「枠組」の中でどう答えを出すのかが重要であり、魅力的なのだ。物事はひとつひとつ丁寧に答えを出し、その積み重ねで作られていくことを忘れてはならないと秋山は力強く訴えかけた。秋山も自分自身に「枠組」を設定しながら作品制作をしている。それはどんな「枠組」であろうか。それは後半の第38回美術館大学へと続く。(たかだみつみ・APM事務局長、学芸員/APM公式ホームページより抜粋)